

畑整地、作物水やり、牛の餌やり…



生徒の代わりに畝作りに精を出す瀬戸南高の教員＝4月27日

農業系高校
教員が奮闘

「これほど長い期間、農場 井勇教諭がナスやピーマンなどから生徒がいなくなったこと、どの夏野菜を栽培するための畝作りに精を出していた。例年20人以上の生徒が実習の一環としておかないと」

瀬戸南高(岡山市東区瀬戸町沖)の農場で先月下旬、石日はくわを手に教員3人で汗

新型コロナウイルスの影響で県立学校の休校が続く中、農業系高校は他校と違った悩みを抱える。実習で使う畑の整地や作物の水やり、飼育している牛の餌やりといった作業への対応だ。野菜作りは時間を要し、生き物も放っておくことはできない。いつ再開しても普段通りにできるよう教員が奮闘し、生徒の帰りを待っている。(南原久人)

実習再開に備える

を流した。

同校は実習用の農場(約4万3500平方メートル)で野菜栽培や畜産などに取り組んでいる。3月2日から休校した後、先月8日に学校を一度再開したが、半日授業で農場での実習がほとんどないまま、20日から再び休校に入った。休校中は、ハウス栽培しているブドウの水やりや温度管理▽草花の植え付け▽牛やヤギの餌やりなどを農場担当の教員約20人で分業している。

「一つ一つの作業は教育活動の一環なので生徒にさせてあげたいが、農業は季節ごとに工程も変わるので、他の教科と違って延期できないのがもどかしい」と農場長の平田真人教諭。生徒に農作物や牛が成長した姿を見せるため、学校のホームページに日々の農場の写真を掲載している。

県内には農業系高校が計8校あり、ほかにも同じような悩みを持つ。高松農業高(岡山市北区高松原古才)では豚の分娩やサトイモの植え付けなどを教員のみで対応。農業科の約40人では人手が足りず、他の教科の教員にも手伝ってもらっている。新見高(新見市新見)は、キュウリ、ナスなど9品目の野菜と牛の世話を教員約10人でしている。